北海道登別青嶺高等学校
総合的な探究の時間合同説明会レポート

BRIDGE構築事業とは

BRIDGE
構築事業

変化が激しく先の見通しが立ちにくい「VUCA（ブーカ）」時代に対応し、**持続可能な社会を創造する子どもたちを社会全体で育む**ため、道教委が令和７年度から実施している事業です。

本事業では、生徒・教員・地域に向け、４つのプロジェクトに取り組んでおり、総合的な探究の時間合同説明会は、「『実社会・実生活と結び付いた課題設定』支援プロジェクト」として実施しています。本合同説明会は、**地域の方に探究活動の理解を深めていただき、生徒の探究活動の支援の輪を拡充させる**ことを目的としております。

タイムスケジュール

登別青嶺高校には、地域の活性化をテーマとした、課題解決の実行プロセスを学習できる選択科目「じもと学」があります。本説明会には、日頃から「じもと学」や学校運営協議会等を通じて、学校に携わっている多くの方々に参加していただきました。

13:00	13:30	13：35	13:50	14:10	14:20	14:30	14:40
受付		開会式	総合的な探究の時間の説明	学校の取組紹介（トークセッション）	質疑応答	総合的な探究の時間応援団リストの説明	閉会式

探究活動実践例

子どもイベントチーム

子どもイベントチームの生徒は、「登別市の公園でボール遊びなどが制限されている所が増え、小学生が自由に遊べる居場所が十分とは言えないこと」や、「登別青嶺高校の入学者数が減少していること」を課題と捉え、その解決に向けて、定期的なイベントの開催により、子どもの居場所づくりや、登別青嶺高校の魅力を発信する活動に取り組んでいます。

昨年度は、廃校舎を活用した居場所づくりを検討しましたが、資金面や運営面で継続が難しいことが分かりました。一方、試験的に開催したイベント後のアンケートでは、「イベントの開催自体が子どもの居場所づくりに繋がる」といった意見が多く寄せられました。

今年度は、定期的なイベントの開催を通して子どもたちの居場所を作るとともに、登別青嶺高校の魅力を向上させ、小中学生に向けその魅力を発信するなどして、学校について知ってもらう機会を増やしていく予定です。

【「じもと学」で、イベント開催に向けて相談している様子】

学校の取組紹介

トークセッション

生徒からは探究活動を通して学んだことについて、「探究活動を進めるために、物事をしっかりと考えてから行動するようになりました。また、多様な方々と関わる中で、何気なく過ごしている日常生活や学校生活は、自分の知らないところで様々な人に支えられていることを実感するとともに、理解できるようになったことです。」と話がありました。

また、探究活動の魅力について、探究活動を伴走している教員からは、「生徒の『やってみたい』を応援してくれる地域の方がいることに加え、生徒が挑戦できる環境が地域にあることです。」と話があり、登別市との良好な関係性が見て取れました。

【トークセッションをしている様子】

質疑応答

質疑応答では、参加者から「子どもの居場所として活用できそうな候補があれば教えてください。」という質問がありました。生徒からは、「当初は登別市内の廃校舎を活用したいと考えていましたが、運営費用などの面で現実的ではないと判断し、断念しました。しかし、もう一つの目的である学校の魅力を知ってもらうことを考えると、高校を会場にイベントを開催することで、子どもの居場所づくりと学校の魅力創出・発信の両方に繋がると考えています。今後は、その方向で取り組んでいきたいです。」と、これまでの経過や今後の方向性について回答がありました。

【探究活動について発表している様子】